

家庭・地域での備えを再確認しよう	2～3ページ
住宅の耐震診断のお知らせ	4
飯山市基本構想審議会委員の募集	5
飯山市青少年芸術鑑賞会のご案内	7
フルディックウォーキング」始めませんか	8
魅力ある中学校づくりを目指して③	10
市営住宅入居者の募集	12

9月には防災月間

家庭・地域で災害への備えを再確認しよう

飯山市総合防災訓練 行われる

防災の日の9月1日、岡山区に隣接する保園園地を会場に平成19年度飯山市総合防災訓練が行われました。



9月1日に開催の総合防災訓練での岡山区住民の皆さんによる初期消火訓練

この日の訓練には地元岡山区の住民の皆さんをはじめ約250人が参加。「長野県北部で大地震が発生」との想定のもと、さまざまな訓練が行われました。岳北消防本部により行われた救助・救出訓練では、「行方不明となっていた住民1名が野々海橋下で発見され救助が必要となった」との想定で実施。負傷者を野々海橋下からロープで橋の上へ吊り上げ救助する大掛か



△救助・救出訓練。ロープを慎重に扱いながらも手際よく作業が行われた。

りな訓練となりました。参加者が大勢見守る中、岳北消防署員によつて手際よく作業が進められ、無事救出に成功すると観衆から拍手が沸き起こっていました。当日は地元岡山区の皆さんが多数、積極的に訓練に参加され、防災に対する関心を深めているようでした。

もう一度考えたい 家庭や地域での備え

全国どこでも災害の可能性が大地震も想定した備えを

この数年、毎年やってくる大型台風や、大地震発生危険性が低いといわれているような所でも大きな地震に見舞われており、日本全国、大災害が来ないという地域はありません。

そこで大きな災害に備え、各家庭では耐震診断等の建物の安全対策、家具等の転倒・落下防止、防災用品・食料・飲料水等物資の事前準備など、日常的に安全対策を行っておく必要があります。

長野県では昨年度から、市と県が協力し個人住宅の耐震診断を希望者に無料で行っています。これは過去の地震で特に被害が多く出

行政や消防団がいれば 自主防災組織はいらなく?

市ではこの数年、自主防災組織結成の呼びかけを行っています。

既にモデル的に実施されている「災害時住民支え合いマップ」の作成を自主防災組織において取り組もうとしています。

これは、一人暮らし高齢者など、災害時に自力で避難をすることが困難な「要援護者」と、その隣近所等で要援護者の安否確認、避難誘導等を行う「支援者」を自主防災組織内で決め、それらを記した地図を作成してもらおうというものです。

市ではこうした自主防災組織の取り組みを強化し、連携を深めることで、災害に強いまちづくりを今後一層進めていきたいと考えています。

地域での防災力向上に 新たな取り組みも

「隣近所の助け合い」のための準備として、市と社会福祉協議会では、木島地区

も考えられます。また区においても、これまでの組織のままでは、区長さんに連絡・任務が集中してしまったり、「誰かがあの人を助けるだろう」と考え救助が遅れたりすることも考えられます。既に自主防災組織が結成された区では、独自の防災訓練を実施したり、補助等を活用し防災に必要な備品を整備したりするなど、徐々に取り組みが進められています。

10月1日 運用が始まります

緊急地震速報

市報5月号の「防災ナビ」でもお知らせしましたが、気象庁が大きな地震の揺れを発生の数秒前にお知らせする「緊急地震速報」が今年10月1日から始まります。

緊急地震速報とは

地震が発生すると、震源からは大きな揺れの前に初期微動という小さな揺れが伝わります。緊急地震速報はこの初期微動から、大きな揺れの到達時刻と震度を推定してお知らせするものです。

情報の入手方法は

10月1日より、NHKのテレビ・ラジオにて緊急地震速報が放送される予定となっています。このほか緊急地震速報の館内放送に対応する施設でも館内で情報を知ることが可能となります。

速報を見聞きしてから発生までは数秒から数十秒・・・

周囲の状況に応じて慌てず まず身の安全を確保しましょう!

●家庭では・・・

- ・頭を保護し丈夫な机の下などに隠れる
- ・あわてて外に飛び出さない



●人が大勢いる施設では・・・

- ・係員の指示に従う
- ・落ち着いて行動
- ・あわてて出口に走り出さない

●自動車運転中は・・・

- ・慌ててブレーキをかけない
- ・ハザードランプを点灯し、揺れを感じたらゆっくり停止

●屋外(街)では・・・

- ・ブロック塀の崩壊等に注意
- ・看板や割れたガラスの落下に注意し、ビルのそばから離れる

●山やがけ付近では・・・

- ・落石やがけ崩れに注意

現在、市内107区のうち自主防災組織が結成されているのは42区。全体の約40%になります。飯山市ではもともと区民同士の連携が強く、これまでも何かと地域で助け合い、隣近所の顔も良くわかつていたため、自主防災組織結成にあたっての土壌が整っているといえます。

一方、こうしたこれまでの地域連携に加え、地元消防団・市・消防署などがありながら、区単位の自主防災組織が必要なのだろうかという声も聞かれます。

しかし、もし大災害になれば、道路が寸断されたり、電話が不通になったりすることも避けられません。消防団員や行政関係者にかかわらず誰もが被災者になるような状況で救助に行けない場合



④地域で大きな力となる消防団。しかし消防団員でなくても、日頃から救護法などを学んでおきたいもの。(写真は9月1日の防災訓練)

防災シンポジウム 2007 in 飯山

「災害に強く、より魅力ある地域へ」

11月17日(土) 午後1時30分～
飯山市公民館

飯山を襲った57・58水害から四半世紀。改めて防災、地域の魅力について考えてみませんか。

●基調講演 「防災コミュニティの育て方」

講師：重川希志依 氏

(富士常葉大学 環境防災学部 教授)

●ミニ防災塾

木島・常盤小学校児童による発表

●パネルディスカッション

「災害に強く、より魅力ある地域へ」

主催

飯山市、国土交通省千曲川河川事務所